

平成29年度 第1回湯梨浜町泊地域小さな拠点検討協議会議

日 時 平成29年4月26日(水) 18時30分～

場 所 湯梨浜町中央公民館泊分館 2階大会議室

1. 開 会

2. 会長あいさつ

3. 視察(波多コミュニティ協議会)振り返り・・・資料1

4. 「小さな拠点推進事業」、「小さな拠点施設整備事業」の今後の取組みについて
拠点の方向性・・・資料2

5. その他

6. 閉 会

湯梨浜町泊地域小さな拠点検討協議会委員名簿

任期：平成28年8月10日～平成30年8月9日（2年間）

敬称略

	区分	役職	氏名	備考
1	産 鳥取県漁業協同組合 泊支所	組合員	朝日田 卓朗	
2	産 湯梨浜町商工会	副会長	石沼 友	副会長
3	産 鳥取中央農業協同組合 泊支所	泊支所金融共済課 兼 ふれあい推進課長	岩本 馨	
4	福 社会福祉法人 湯梨浜町社会福祉協議会	事務局長	石本 義之	
5	金 株式会社山陰合同銀行 泊出張所	出張所長	鷲野 星夫	
6	公募		田嶋 昭彦	
7	公募		遠藤 公章	会長
8	公募		渡邊 由佳	
9	公募		中原 政喜	
10	公募		石井 美佳代	
11	公募		坂田 克	

	湯梨浜町	副町長（地方創生担当）	山根 孝幸	
	湯梨浜町みらい創造室	室長	岩崎 正一郎	事務局
	湯梨浜町みらい創造室	町民協働担当主事	谷岡 雅也	事務局

泊地域小さな拠点検討協議会 視察での感想等について

視察先：波多コミュニティ協議会

日時：平成29年3月22日（水）13:00～15:15

参加者：（委員）遠藤、石沼、田嶋、渡邊、中原、坂田

（オブザーバー）地域おこし協力隊 辺

（事務局）山根副町長、岩崎室長、谷岡

1. 感想

（1）波多マーケットについて

- ・元小学校の教室を改修してシンプルながら買い物がしやすい店づくりだと感じた。
- ・品ぞろえに関しては乾物、調味料、日用品は充実していたが、生鮮野菜、肉、魚類は少ない。
- ・価格は安めで、街のスーパーとさほど変わらないようだ。
- ・レジの前に半額コーナーがあったが、やはり賞味期限や在庫管理が課題となりそう。
- ・ちょっとした売店程度だと思っていたが、アイテム数も多く、価格も大手スーパー並みで大変驚きました。
- ・「波多マーケット」がある波多交流センターはそれ以外にも様々な活動や会議などをする唯一の拠点としての施設でもあることから人が集まりやすい。
- ・立地的にも集落のほぼ中心にあり、また、集落の規模も半径5～6kmと比較的小さなことから、交通手段が無くても比較的人が集まりやすい。
- ・波多交流センター職員が「波多マーケット」の店員や「たすけ愛号」の運転手を兼ねたりすることで人件費を大幅に削減できていた。
- ・お店の品ぞろえはPOS管理による、商品管理でそこそこに揃っていたと思われた。山間の小さな地区でスーパー並みの価格で提供していた点についても、移動手段を持たない高齢者の方にとっては魅力となると感じた。生鮮食料品はなるべく置かないようにしている点はもう少し工夫次第で何とかかなりそうだと感じた。

（2）その他の部分、取組について

- ・車による送迎、配達があるのは大きい。
- ・地元の民業圧迫にならないよう配慮されている姿勢に感銘を受けた。
- ・閉校後時10年くらいたっているわりには、校舎内外がきれいに管理されていた。
- ・事業所が0ということに驚いた。
- ・泊と違い山間部であることから、様々な面で他の地域とのかかわりが難しいことが波多コミュニティ協議会の存在意義を高めている要因だと思う。
- ・馴染みのない、自治組織のありかたがよくわからなかった。
- ・実際に視察してみるとその地区がかなり小さな地区だったことから、泊地区でもできないわけではない自信を感じた。一方で視察先の規模を見ると本当に宇谷から小浜・筒地までの旧泊村のエリアをカバーできるものが作れるのか拠点にする場所の落とし所をどこにするのかという点で絞り込むのに苦心するであろうと感じた。
- ・波多地区は市中心部や市庁舎に行くのにも何十キロも離れているのに対して、泊地区は羽合や倉吉や青谷のスーパーなどへのアクセスが容易なので波多地区のように住民に困り感を感じてもらえるか、如何にして小さな拠点を利用してもらえるかという意識を持ってもらう仕掛けをしていくことも併せて考えていく必要があると思った。

2. 波多コミュニティ協議会の取組全体の中で泊地域でも活用できると感じた部分はどこですか？

- ・なにより波多コミュニティ協議会のような地域振興組織が必要であると感じた。
- ・施設を複合的に利用することにより、固定費、人件費を節約する方法を学んだ気がする。
- ・現時点であまり使われていない施設を波多交流センターのように多角的に利用してはどうか。
- ・「たすけ愛号」を泊地域に合った形で運用できないか。
- ・法人化（認可地縁団体）することで補助金などを活用する。

3. 泊地域では、どのように取り組めばよいと思いますか？（できるだけ具体的に記載ください。）

- ・役場泊支所、中央公民館泊分館、漁村センターの機能を統合した複合施設を泊地域の利便性の良い場所に建設し、その施設内に売店を設置したい。そこの職員さんがその売店も運営してもらえるのが理想。
- ・漁村センターや役場泊庁舎などを多角的に利用する。
- ・泊地域内の施設（しおさいプラザ、中央公民館泊分館、さくら歯科、つわぶき、役場泊庁舎、吉田医院、コミュニティハウス石沼など）に限定した「たすけ愛号」を運行する。（予約制）
- ・「人が集まり集まれて、元気や活気が出る、空間・場所を作ること」、「10年先の人口減少・高齢化を見据えて、安心して住める地域づくり・拠点作り」そのために必要と考える拠点の機能：買い物拠点・防災拠点・交流拠点プラスアルファで子育て（教育補完拠点）、まちづくり協議会

4. その他

- ・会長の説明にもあったが、勢いでやっけて行くことも必要かと感じた。総意をまとめていくのも必要だが、ある程度勢いで押し切っていくことも必要。
- ・欲を言えば、入りやすい雰囲気作り。たしかに、買ってもらわないと経営は成り立たないが、買ってもらわなくてよい気楽さや気軽さがお店の永続性に影響するのを感じたりした。
- ・できたら、今のご時世ポイントもつくような買い物ができるとうれしいが・・・。

泊地域小さな拠点検討協議会 視察での感想等について（追加分）

1. 感想

（1）波多マーケットについて

- ・「はたマーケット」は協議会の事業の一部、交流センター、温泉施設等の運営も行っている。
- ・店舗開設の際、住民に対し1口2,000円の寄付を募り、約100万円調達。このことは後に住民が店舗を利用する動機付けにもなっている。
- ・商品の調達、供給、在庫管理等全日食チェーンが管理していることから商品はコンビニと同程度であるが、価格がスーパーマーケット並みの低価格であることは圏域内の住人にとってはありがたい。
- ・商品に関して全日食チェーンとの契約ではあるが、地元産品の販売等には制限がないところは地元生産者、消費者にとっても良い。
- ・地域内交通（無料送迎車）が確保、稼働していることは地域内高齢者（買い物難民）にとっては非常に便利なシステム。

（2）その他の部分、取組について

- ・協議会で「はたマーケット」のほか交流センター、温泉施設の運営等いくつかの事業を運営されており、総事業費約5000万円の約45%は公費

2. 波多コミュニティ協議会の取組全体の中で泊地域でも活用できると感じた部分はどこですか？

- ・店舗運営の方法は全日食チェーンのような形態でなければ価格的に移動手段のある住民は既存のスーパーマーケットを利用する。
- ・開店時に寄付等で地元住民にかかわりを持っていただくことにより開店後の利用の動機付けを図る。
- ・買い物難民の移動手段は参考になる。

3. 泊地域では、どのように取り組めばよいと思いますか？（できるだけ具体的に記載ください。）

- ・既存の店舗との調整が必要
- ・現在は移動手段があり、買い物に困っていない住民が利用する意識付けを行うのは重要。
- ・立地的には泊支所から新港周辺が郵便局、銀行、医院等も近くに在り、徒歩、自動車ともに利便性が良い。
- ・地元新商品開発も行い圏域外から外貨を稼ぐ必要もある。

第 6 回会議 検討項目（宿題回答）

○協議会の検討テーマ

- ・人口を増やすためにはどうすればいいか
- ・お年寄りがこれからも暮らしていけるにはどうすればいいか

○具体的な検討項目

- ・買い物
- ・住む人（場所）

3. 小さな拠点施設について

- ・耐震化が必要な施設については、廃止の方向が良いと思う。（耐震化しても耐用年数は変わらない。）
- ・既存施設は古い上、駐車場が狭く、支所・漁村センターを除いて集落から離れている。
- ・集約化は必要と思うが、現存施設の利活用は現実的でないと思う。
（費用的な面は考慮せず。）

- ・現存公共施設を宅地や総合コミュニティ拠点とする。

- ・漁村センター：（漁村センターの持つ）集会場の機能を小さな拠点に移して解体。
- ・青少年の家：稼働している？宿泊する気になる？解体して跡地を活用。
- ・中央公民館：老朽化しているので解体して、つわぶきの空き室や小さな拠点に現在の機能を移す。

○集約化

- ・一番の人口集積地が良い 泊地域の街中

○利活用

- ・青少年の家の使用状況を知りませんが、鳥取県の合宿所で検索してもヒットしない 体育館も、グラウンドもあり、綺麗な海があつて多少うるさくても大丈夫なら、夏休みや春休みの部活の合宿など情報提供すれば需要があるのではないか

- ・公共施設の見直しで空いた建物は役場出先や民間の事務所や店舗など転用できないか。本庁舎等で手狭になった部署があれば泊に引越してもらう

- ・漁村センターに学習塾を誘致する

- ・青少年の家は海水浴客、釣り客、サーファー、グラウンド・ゴルフ等で泊まりに訪れる人々に利用してもらうよう関係者、関係機関と連携する。

- ・青少年の家以外の3施設については統合も可能だと思う。車を持たない高齢者でも徒歩、あるいは公共交通手段を使って行くことができる場所に設置してほしい。広い駐車場、店舗の併設、災害時の避難所としても利用できる施設を望む。